

あなたと一緒に 立川をやさしい街へ



山本ようすけの提案

1 誰もが安心して暮らせるやさしい立川

- 学校給食における質の向上や負担軽減、地元食材の活用促進
- フードバンクや子ども食堂の拡充
- 空き家を借り上げ、手入れをして公営住宅・コミュニティスペースとして利活用
- 交通弱者へのオンデマンド交通の実現
- 国民健康保険料金の負担軽減

2 多様性にあふれる誰もが生きやすい立川

- 「障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」の積極活用
- 同性パートナーシップの確立
- 障害児、発達障害児に対する一般児童生徒の理解の促進
- 地域に一人暮らしの人や高齢者が集まれる居場所やコミュニティ形成の促進
- 待機児童の解消と子育て支援の拡充
- ヘイトスピーチ禁止条例の制定

3 みんなで一緒に未来を決める立川

- 大事なことはみんなで決める！ 住民投票条例の制定
- 市民が決める参加型予算の創設
- 市民に開かれた議会への改革・定例会ごとの議会報告会の開催
- 議員報酬を決める審議会への市民公募の拡大

4 平和と安全を大切にする立川

- 憲法9条の改悪に反対する政府への意見書の提出
- 核兵器禁止条約参加を求める政府への意見書の提出
- 横田基地へのオスプレイ配備に反対
- 集中豪雨による洪水・冠水対策の拡充
- 放射線測定の継続（保育園・学校給食）



プロフィール 山本ようすけ 27歳

1990年 武蔵村山市に生まれる。
 1999年 稲城市に引越。
 2006年 立川高校 入学。文化祭のクラスの出し物のリーダーを担当。部活は美術部と山岳部。
 2009年 立川高校 卒業。立川の予備校で浪人生活を送る中、駅前でビッグイシュー販売者と知り合い、ボランティアを始める。
 2010年 一橋大学 社会学部 入学。貧困問題を主軸としつつもジェンダー、心理学、歴史、貧困、哲学、経済学、政治学等にも触れる。様々な業界を見聞すべくアルバイトは駅員、ホテルスタッフ、コンビニ店員、倉庫作業、試験監督など数多く経験。
 2014年 一橋大学卒業。外資系コンサルティング会社に就職。官公庁での政策立案や調査事業を手がける他、民間企業の業務改革等にも従事。

安倍政権は、もう終わりにしよう！

改ざんと隠ぺいにはうんざり

昨今の国政の状況を見ていると、文書の改ざんと隠蔽、ごまかしや責任転嫁ばかりでありにも情けないと感じます。人々の生活をそっこのけで身内ばかりを優遇するような安倍政権の姿勢には大きな疑問を抱きます。

みんなにやさしい政治へ

身内ではなく、どんな人にもやさしい、オープンな政治を実現し、誰もが安心して暮らせる社会を目指したい。今の政治を見るにつけ、そんな想いを一層強く感じます。人に寄り添おうという気持ちは誰にも負けません。自分だからこそ、上意下達ではないボトムアップの立川、議員だけではなく市民とともに「やさしい街・立川」を実現できると信じています。



ガンバレ！ 山本ようすけ



宇都宮けんじ
日本弁護士会・元会長



上原ひろこ
元国立市長



大沢ゆたか
立川市議会議員

島田清作（富士見町・元立川市議会議員）
 吉村一正（砂川町・さんきゅうハウス理事長）
 加藤みどり（錦町・立川在陣副会長）
 赤川政由（高松町・銅板造形作家）
 瀬戸昌之（羽衣町・環境学者）
 田中紀子（幸町・障害者の家族）
 中里繪魯洲（西砂町・美術家）
 谷村雅代（若葉町）
 猪股澄子（高松町・コミュニティカフェスタッフ）
 山田真由美（曙町・フリーライター）

若い自治体議員のネットワークでパワーアップ



坂井えつ子
東京都・小金井市議



重松朋弘
東京都・国立市議



会津もとこ
千葉県・成田市議



清野和彦
埼玉県・秩父市議

連絡先

〒190-0011 立川市高松町3-13-1-403号室
 TEL: 080-5650-7833 MAIL: t.yamayou@gmail.com
 公式ホームページ yamamoto-yosuke.com

会員登録中 カンパにご協力をお願いします
 郵便振替口座：00180-4-487440 口座名：やさしい街 立川をつくる会

議会改革を前へ

- 議員特権の復活に異議あり！
- 若者議会の設置を提言します！



6月17日は立川市議選の投票日

27歳の挑戦

山本 ようすけ

無所属

山本ようすけ 立川 で検索！ yamamoto-yosuke.com

やさしい街・立川をつくる会NEWS
2018年5月号



山本ようすけ
(やさしい街・立川をつくる会)

大沢ゆたか議員に **インタビュー**

議会改革を前へ

- 議員特権の復活に異議あり!
- 若者議会の設置を提言します!

あなたはごどう思いますか?

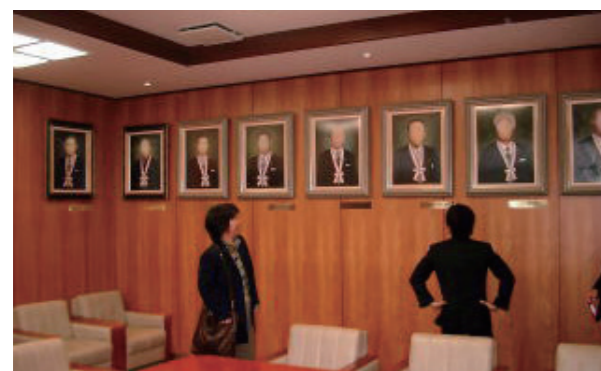


大沢ゆたか(立川市議会議員)

1998年初当選。以後5期20年にわたって立川市議会議員を務める。一貫して反貧困の立場から、障害者やホームレスの支援に取り組む。2007年には立川市議会にあった議員特権廃止を提言し実現。

① 議員年金の復活は特権

- **山本** かつては長く議員を務めた人には、宝石のついた議員バッジや肖像画が作られたと聞いていますが。
- **大沢** 2007年に、私も参加して議員特権を廃止しようというキャンペーンを行いました。立川市では宝石入りの議員バッジや30万円もする肖像画を廃止しました(写真参照)。その時に議員年金も特権的だと批判し、その結果2011年に廃止になりました。最近では与党の強引な主張で政務活動費が新年会などの飲食を伴う会合に使えるように変更されましたが、大沢や他の野党の追及で使えなくなりました。
- **山本** 議員年金や政務活動費には今でも問題があるのですね。
- **大沢** はい。しかし現在、その特権的な議員年金が復活され、新たに税金が投入されようとしています。全国の地方議会の1000以上が「復活に賛成」の決議を挙げています。東京都議会でも自民党・公明党・立憲民主党・都民ファースト・共産党などは反対していません(表参照)。
- **山本** そもそも議員は年間70~80日しか議会活動に拘束されません。どれだけ活動しているか



表彰された議員の肖像画(2007年当時)

は議員しだいです。公務員と同様に厚生年金に加入させ、税金を投入するには疑問があります。

- **大沢** 地方議員の半数以上は兼業です。議会に出席しているだけで年金が享受できるのは特権的で、反対すべきだと思います。自民党の国会議員の小泉進次郎さんも反対していますね。

② 若者議会の開催を

- **山本** いくつかの自治体の市議会について世論調査では、「市民の声が議会に反映されていると思う(もしくは「やや思う」)と回答したのは、たったの7%程度です。
市民の声が反映されていると実感できるために、いっそのこと市民が直接予算決定に参加しては?
- **大沢** 興味深い発想ですね。市民参加型予算として一定金額を市民で決めるという手法を採用している自治体はいくつかあります。
- **山本** だとしたら若者を対象に絞った市民参加型予算の制度もありでは?
- **大沢** 愛知県の新城市では「若者議会」を制度として作り、1000万円の予算案を作成しています。高校生も含めて多くの若者が参加しているようです。若い人の政治や地域への関心も高まるので



愛知県新城市の若者議会(新城市HPより)

はないでしょうか。斬新なアイデアも期待できます。

- **山本** すばらしい提案です。ぜひ立川でも実現したいです。市民参加を大切にしつつ、市民と一緒に「やさしい街・立川」をめざしたいと思います。
- **大沢** もっと若い人に頑張ってもらいたい。期待しています。

議員年金復活への賛否

容認	反対
都民ファースト 自民党 公明党 共産党 立憲民主党	都議会生活者ネットワーク 維新の会 かがやけ Tokyo

東京都議会では、都議会生活者ネットワーク、維新の会、かがやけ Tokyo が議員年金復活反対の意見書を提案したが、都民ファースト、自民党、公明党、共産党、立憲民主党は賛成しなかった。

山本ようすけの見解

横田基地へのオスプレイ配備に反対



この夏、横田基地にCV-22オスプレイが5機配備されるとの通知がアメリカからありました。オスプレイはただ

でさえ事故が多発している危険な航空機です。現状でも横田基地では軍用輸送機が訓練で飛び回り騒音と落下物などで周辺住民の平穏な生活を奪っています。さらに夜間や低空飛行訓練をするCV-22の配備はアメリカの戦争に巻き込まれる危険性もあります。立川市は配備にしっかりと反対をすべきです。

山本ようすけ 3つのこだわり 困っている人によりそう施策を

1 性的少数者の人権を尊重する社会へ!



LGBT、すなわち性的少数者への取り組みは立川市では遅れています。立川市男女平等参画基本条例にはLGBTという言葉がありません。武蔵野市や多摩市、渋谷区、国立市ではその概念を取り入れた条例を作っています。また、文部科学省が2015年に出した学校での「性同一性障害に係る児童生徒へのきめ細かな対応」についても取り組みが遅れています。

また、清水市長は昨年の雑誌AERAが行った「LGBT支援と全国首長アンケート」に無回答でした。他自治体の首長は自分の考えで回答しているのに残念です。性的少数者への取り組みをもっと進めるべきです。

2 高齢者の不安や孤立に対する施策を!



今や高齢者の半数以上が「生活が苦しい」と感じています。年配の人たちの話を聞くと孤独や不安を抱えていることがよく伝わってきます。とりわけ一人暮らしの人は将来の生活や孤独状態に大きな不安を抱えています。

私は、居場所やコミュニティ形成の促進による生きがいの確立、地域での見守り促進など、「お金がないからお金をあげる」という行政が従来行ってきた月並みの方法ではなく、お金をかけずとも真の意味で豊かに生活できるような政策を提言してゆきたいと強く思っています。

3 「障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」の積極活用を!



4月1日より「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」が施行されました。誰もが地域社会の一員として尊重され、障害のある人もない人も暮らしやすいまちを目指すという理念の条例施行は非常に歓迎できます。

しかし、この条例が有効なものになるか、まちの姿が変わるかは今後の私たちの働きかけ次第です。せっかくの条例を有名無実化させないためにも、積極的な活用に向けた声を挙げてゆかねばならないと強く感じます。